

(様式第1号)

2019年4月26日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領域名：自立に向けた介護実践の指導領域

科目名：地域における介護実践の展開

単位数：2単位

認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人静岡県介護福祉士会

団体事務所の所在地：〒420-0856


静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階

電話：054-253-0818

FAX：054-253-0829

E-mail：shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：一般社団法人静岡県介護福祉士会 

申請責任者：会長 及川 ゆり

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	自立に向けた介護実践の指導領域	
科目名	地域における介護実践の展開	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら提供する介護実践の地域における位置づけを理解し、利用者が地域で継続して生活していける支援を展開させる</li> <li>・介護職チームのリーダーとして介護サービスマネジメントを実践し、提供サービスの質の向上を図る力を育成する</li> <li>・地域におけるボランティア、家族介護者、介護福祉士等への介護に関する助言・支援が行えるような、地域とかがわる力を獲得させる</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での生活を継続するための見通しの立ったアクションプラン（介護チームづくり等を含めた利用者に対するプラン）を立てることができる。</li> <li>・自立に向けた生活支援技術の指導ができる。</li> <li>・チームにおいて事例検討が運営できる。</li> <li>・伝える、伝わることを意識したプレゼンテーションを実践できる。</li> <li>・地域における認定介護福祉士の役割が実践できる</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○地域におけるそれぞれの介護実践を理解し、地域において利用者を継続的に支える支援を展開していくためのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が地域で生活する意義</li> <li>・利用者にとっての最適な場を考えた支援</li> <li>・最期まで地域での生活を継続するために必要な視点の共有</li> <li>・地域に戻るために必要な施設ケアの見直し</li> <li>・在宅での生活維持のためのケアの見通しを立てる</li> <li>・地域で生活を継続するために必要な視点と支援方法</li> <li>・さまざまな地域資源の活用</li> </ul> <p>○介護職チームとして、ケアカンファレンスを適切に実施し、介護チームの提供するサービスの質を向上するための指導や環境整備を行うための留意点</p>	<p>○課題学習【事前】（4時間） 「レポート課題：自施設・自事業所の特性を踏まえ、地域での暮らしを継続する上で、介護保険事業所の役割と、介護福祉士の職責について述べなさい。」</p> <p>【1日目】 講義：4時間 地域福祉に関する法制度について、講義を行う。 【地域包括ケアシステム】【在宅サービス】【施設サービス】 【地域密着型サービス】などの基本的キーワードが説明できる力を養う。を介護保険制度の法改正を主軸に置きながら概説を行う。</p> <p>演習：6時間 事例を基にケーススタディを行う。扱う事例は、 ①施設で暮らす高齢者 ②地域で暮らす高齢者 ③施設で暮らす障害者 ④地域で暮らす障害者 などを多岐に渡り検討を行う。特に高齢者領域は【在宅復帰の視点】、障害者領域は【地域移行の視点】について理解を深め、制度利用のシミュレーションを実施する。</p> <p>【2日目】 講義：4時間 生活支援を【利用者にとって最適な場】として講義展開を行う。最期の瞬間まで、利用者本人の【尊</p>

	<p>○地域の介護力の向上を図るための役割</p> <p>○地域における住民等の人間的尊厳が保障され豊かな生活を送れるような地域社会をつくるための啓蒙的役割、介護技術、自立支援、事例検討、地域での生活、ケアチームの育成、プレゼンテーション、介護サービスマネジメント、介護職リーダーの育成</p>	<p>厳】【機能向上】を自立というテーマで問う内容とする。自立を【自助】【自律】の両側面で切り取り、心身の状況に応じた介護について概念構築を目指す。また自らの介護観の成熟を果たすためのリフレクションを重要視する。</p> <p>演習：6時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半の演習では、事例を基にケーススタディを行う。扱う事例は、①介護職ができる機能向上事例 ②多職種チームで変革を起こす事例 ③在宅でのターミナルケア事例 などを多岐に渡り検討を行う。</li> <li>・後半の演習では、特定事例を基にアセスメントを行い、3日目に用いる自職場事例への展開を検討する。</li> </ul> <p>注意事項：3日目はプレゼンテーションを予定しているのでPCなど各自器材の持ち込みについて検討をしておく。</p> <p>【3日目】</p> <p>演習：10時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1コマ目 ケアの実施状況の報告と検討 ①</li> <li>・2コマ目 ケアの実施状況の報告と検討 ②</li> <li>・3コマ・4コマ目 代表事例を決め、発表を行う準備を行う。 その際 ①啓蒙的役割②介護技術③自立支援④地域での生活のあり方⑤ケアチームの育成⑥サービスマネジメント⑦リーダーの育成など 本科目の達成目標となるキーワードや視点を意識しておき、発表内容と到達目標の齟齬がないように設定を行う。</li> <li>・5コマ目 プレゼンテーション・科目評価</li> </ul> <p>予め、【豊かな地域社会作りの視点の有無】【実現可能な内容】【人権擁護として人の繋がりを保障するケア】であるかなどの確認を適宜行う。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■通学課程（集合研修） □通信課程（通信研修）</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 評価は担当講師が行う。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>30時間（集合研修30時間）</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻又は早退については30分を上限として認める。（レポート課題あり）</p> <p>○事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は1度のみ再提出を認める。なお、事後課題の提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。 A80点以上 B70点以上 C60点以上 D60点未満とする。</p>	

	<p>なお、提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。 ○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・修士課程を修了している介護福祉士であることが望ましい</li> <li>・認定介護福祉士</li> </ul>
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有する者であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「応用的生活支援の展開と指導」修了していること。</li> <li>・現在、介護福祉士として就業している者が望ましい。</li> </ul>
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。（①～④の全てを満たすこと）</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。（全課程の出席。但し、やむを得ない事情による30分以内の遅刻、早退は認める。詳細は修了要件欄を参照。）</p> <p>②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。（合格、不合格で判定）</p> <p>③事後課題「各職場において、地域等の住み慣れた場、利用者にとって最適の場においての、自立した生活を送るためのアクションプランの作成と実施状況」についてレポートを作成して提出すること。 事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は1度のみ再提出を認める。なお、事後課題の提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。 A 80点以上 B 70点以上 C 60点以上 D 60点未満とする。 なお、提出が期限内に行われない場合、修了を認めない。</p> <p>④欠席の場合は修了を認めない。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	<p>40名（講師1名） 演習時に2名のファシリテーター（認定介護福祉士又は資格取得後10年以上）を配置する。</p>
開催場所（都道府県）	<p>静岡県総合社会福祉会館シズウエル（静岡県静岡市葵区駿府町1-70）</p>

コマシラバス

【地域における介護実践の展開】

1 日目

※具体的なコマシラバス 本科目に関しては1時間45分換算とする。

区分	科目名	時間	内容
1 コマ目	オリエンテーション 講義 地域福祉に関する法制度①	9:30～11:00	・本研修内容の説明 ・地域福祉に関する法制度① 【地域包括ケアシステム】
	休憩	11:00～11:10	
2 コマ目	講義 地域福祉に関する法制度②	11:10～12:40	・地域福祉に関する法制度② 【在宅サービス】【施設サービス】 【地域密着型サービス】
	昼食休憩	12:40～13:40	
3 コマ目	演習①	13:40～15:10	・事例検討 ①施設で暮らす高齢者 ②地域で暮らす高齢者 ③施設で暮らす障害者 ④地域で暮らす障害者 などを多岐に渡り検討を行う。特に高齢者領域は【在宅復帰の視点】、障害者領域は【地域移行の視点】について理解を深め、制度利用のシミュレーションを実施する。
	休憩	15:10～15:20	
4 コマ目	演習②	15:20～16:50	・事例検討 ③施設で暮らす障害者 ④地域暮らす障害者
	休憩	16:50～17:00	
5 コマ目	演習③	17:00～18:30	事例検討 高齢者領域における 【在宅復帰の視点】の理解 障害者領域における 【地域移行の視点】の理解 制度利用のシミュレーション

2 日目

区分	科目名	時間	内容
1 コマ目	オリエンテーション 講義：生活支援① 【利用者にとって最適な場】	9:30～11:00	・生活支援 【利用者にとって最適な場】 最期の瞬間まで、利用者本人の 【尊厳】【機能向上】を自立というテーマで問う 内容とする。
	休憩	11:00～11:10	
2 コマ目	講義：生活支援②	11:10～12:40	・生活支援 【利用者にとって最適な場】

	【利用者にとって最適な場】		自立を【自助】【自律】の両側面で切り取り、心身の状況に応じた介護について概念構築を目指す。 介護観の成熟を果たすためのリフレクション
	昼食休憩	12:40～13:40	
3 コマ目	演習①	13:40～15:10	事例を基にしたケーススタディ ①介護職ができる機能向上事例 ②多職種チームで変革を起こす事例 ③在宅でのターミナルケア事例
	休憩	15:10～15:20	
4 コマ目	演習②	15:20～16:50	特定事例を用いたアセスメントの実際
	休憩	16:50～17:00	
5 コマ目	演習③	17:00～18:30	3日目に向けたプレゼンテーション準備

### 3 日目

区分	科目名	時間	内容
1 コマ目	ケアの実施状況の報告と検討 ①	9:30～11:00	・グループワーク① ケアの実施状況の報告と検討
	休憩	11:00～11:10	
2 コマ目	ケアの実施状況の報告と検討 ②	11:10～12:40	・グループワーク② ケアの実施状況の報告と検討
	昼食休憩	12:40～13:40	
3 コマ目	発表準備①	13:40～15:10	発表事例の決定 ブラッシュアップに向けた話し合い
	休憩	15:10～15:20	
4 コマ目	発表準備②	15:20～16:50	発表準備 ①啓蒙的役割 ②介護技術 ③自立支援 ④地域での生活のあり方 ⑤ケアチームの育成 ⑥サービスマネジメント ⑦リーダーの育成 などの指標におけるリフレクションカードの作成
	休憩	16:50～17:00	
5 コマ目	発表会	17:00～18:30	【豊かな地域社会作りの視点の有無】 【実現可能な内容】 【人権擁護として人の繋がりを保障するケア】 3点におけるパフォーマンス評価尺度を作成

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2021年2月6日
	② 2021年2月7日
	③ 2021年3月13日
	④
開催場所 (会場)	① 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町1-70)
	② //
	③ //
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○地域における介護実践の展開</p> <p>野田由佳里氏 聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授</p> <p>学歴：聖隷クリストファー大学大学院博士後期課程修了 (社会福祉学博士)</p> <p>職歴：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・社会福祉法人豊生会 特別養護老人ホーム彩幸</li><li>・学校法人穂の国学園 中部福祉専門学校</li><li>・学校法人足立学園 愛知文教女子短期大学</li><li>・学校法人聖隷学園 聖隷クリストファー大学 (現在に至る)</li></ul> <p>担当科目・講師経験・調査研究実績</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・担当科目 【介護福祉論】【高齢者福祉論】【社会福祉概論】【介護過程】 【チーム介護論】【包括的ケア論】</li><li>・講師経験</li></ul> <p>平成17年以降 介護福祉士養成教育専任教員や、愛知県・岐阜県・静岡県などの介護福祉士会主催の各種研修講師を担当。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・調査研究実績</li></ul> <p>研究テーマ【介護人材の定着】【腰痛予防】【ケアの質の向上】等。</p> <p>2015年 文部科学省科学研究費採択 「動作分析による腰痛予防に着目した移乗介護技術習得のためのセルフチェック法の開発」研究代表者</p> <p>2017年 文部科学省科学研究費採択</p>

	<p>「外国人を対象とした地域型介護における人材定着を促す好循環システムの開発」研究分担者として参加</p> <p>2018年 文部科学省科学研究費採択</p> <p>「介護職と管理職でつくる仕事のやりがいと経営安定が両立する職場改善プログラムの開発」</p> <p>2019年 文部科学省科学研究費採択</p> <p>「タスクシェアリング活用に着目したアドバンスケアモデルの構築」研究代表者</p> <p>主な研究論文</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 野田由佳里「介護職員の仕事意識に関する考察」2011年</li><li>2. 野田由佳里「離職に及ぼすケアの質に関する研究～特別養護老人ホームで働く介護職員の実態～」2012年</li><li>3. 野田由佳里「介護福祉実践現場と介護福祉士養成校とのOJTにおける協働に関する報告～A県B法人との取り組みの課題」2012年</li><li>4. 野田由佳里「介護職員の仕事のやりがいに関する一考察 同一社会福祉法人に勤務する職員の傾向性」2013年</li><li>5. 野田由佳里「介護職員の就労継続に関する報告—A施設の取り組みと課題—」2013年</li><li>6. 野田由佳里「デイサービスにおける就業構造」2015年</li><li>8. 野田由佳里「デイサービスに従事する熟練ワーカーの就業意識」,2015年</li><li>9. 野田由佳里「ユニットケアにおける情報共有の現状」2016年</li></ol> <p>主な著書：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中央法規「介護福祉士国家試験解説」</li><li>・保育総論社「介護概論」</li></ul>
	<p>担当する講義等</p> <p>事後課題評価</p> <p>野田由佳里氏</p> <p>経歴等は同上</p>



(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会（非常勤:6名） 委員会事務局（担当事務局員：常勤2名・非常勤2名）  認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連間や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合せ先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	平野 美智子
機構問合せ先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合せ先 e-mailアドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合せ先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	平野 美智子
受講問合せ先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合せ先 e-mailアドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ（会長）
管理担当者氏名	平野 美智子（事務局長）